

桑名市における令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果概要

はじめに

全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策を検証・改善したり、学校における教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てたりするために実施されています。

令和6年度は、4月18日（木）に実施され、市内の小学校6年生（27校：1,182人）と、中学校3年生（9校：1,181人）が参加しました。今年度は、小・中学生ともに国語、算数・数学の2教科の調査が行われました。

I 教科の調査結果

各教科の平均正答率

*全国、三重県、桑名市いずれも公立校のみの結果を集計した値（単位は％）

*平成29年度より全国値以外は、小数点以下を四捨五入した整数値での公表

		国 語	算数・数学
小学校	桑名市	67	64
	全国	67.7	63.4
	三重県	67	62
中学校	桑名市	60	56
	全国	58.1	52.5
	三重県	57	53

桑名市における全体的な特徴

- 知識及び技能を問う問題は正答率が高い傾向
- 経年的な課題である無解答率は小学校において改善
- 経年的な課題である算数・数学における「図形」領域の正答率は改善
- 身につけた知識や技能を生かして、自分の考えをまとめて書くこと、表現することなどに引き続き課題
- 文章や図・表の読み取り、考察すること、分析・解釈することなど「読解力」に課題
- 中学校・国語における無解答率がやや高く課題

次ページより各教科、児童生徒質問、学校質問の結果から、桑名市の特徴等を紹介しします。問題の内容等に関しては、『国立教育政策研究所教育課程研究センター』HPにも掲載されていますので、ご参照ください。

<https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>



強み

◎目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題〔思考・判断・表現/選択式〕

正答率
約7割

【大問 1】の概要】

学校の取り組みをオンラインで紹介し合い、目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題。

〔設問三〕

目的や意図に応じて、集めた材料がどのように役に立ったのかを適切に説明したものを選択する。



⑭ はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。

⑮

えっと…〔和田さんのメモ〕を見返す、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。



多くの児童が、設問に対し、発言者の複数のメモと発言とを関連づけ、「情報をまとめて伝えることに役立った」と捉えることができていました。

【和田さんのメモ】

村木さんが知りたいこと	自分が伝えたいこと
図書委員会の取り組み ○読書イベント ・月に1回 ・クイズなど	○アイデア給食 ・年に2回 ・自分たちが考えたこと
これは伝えたい	地いきならでの取り組み ○総合的な学習の時間 ・海の生き物の調査 ○すなはまの清そう活動 ・学期に1回
質問されたら答える	○音楽クラブの演奏会 ・たん田の楽器は木さん ・地いきの行事に参加
用意するもの ・クイズが書かれたカード ・海の生き物の写真	

弱み

▲事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるよう工夫して記述する問題

〔思考・判断・表現/記述式〕

正答率
6割以下

【大問 2】の概要】

目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にし、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫して、学校のよさを伝える文章を書く問題。

〔設問二〕

「たてわり遊び」に関する高山さんの文章の空欄に、条件に合わせた内容を記述する。

<条件>

- ①「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- ②下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
- ③60字以上、100字以内にまとめて書くこと。

②の条件は満たしているものの①の条件を満たしていない児童が約4割いました。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に伝えんのを教えてたり、下級生も楽しめるように、きょうぎの作戦を考えたりします。「みんなてつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに伝えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

○遊びたいことを下級生に聞く

○ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった

○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた

○4年生 みんなが楽しそうであれよかった

小学校算数

強み

◎直方体の見取図について理解し、かく問題

〔知識・技能/選択式〕

正答率
約9割

【大問 3 の概要】

立体図形について、見取図や展開図をかいたり、図形を構成する要素に着目したりして、図形の性質について考える問題。

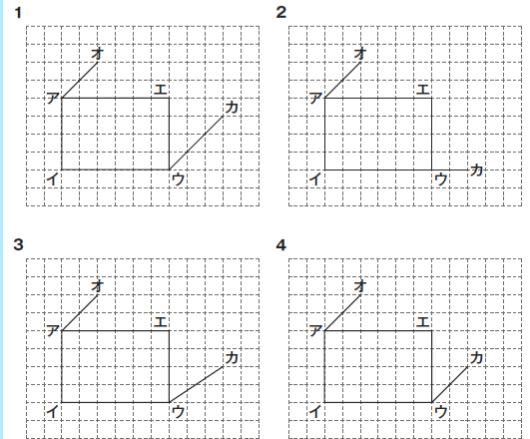
〔設問(1)〕

作成途中の直方体の見取図について、正しい辺をかいた図を選択する。

多くの児童が、直方体の性質である辺ウカが辺アオに平行であり、長さが等しいことを理解していました。

次に、下の 1 から 4 のように、点力の位置を決めて、直方体の辺ウカをかこうとしています。辺ウカとして正しいものはどれですか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



弱み

▲道のりが等しい場合、時間を基に判断し、その理由を記述する問題

〔思考・判断・表現/記述式〕

正答率
3割以下

【大問 4 の概要】

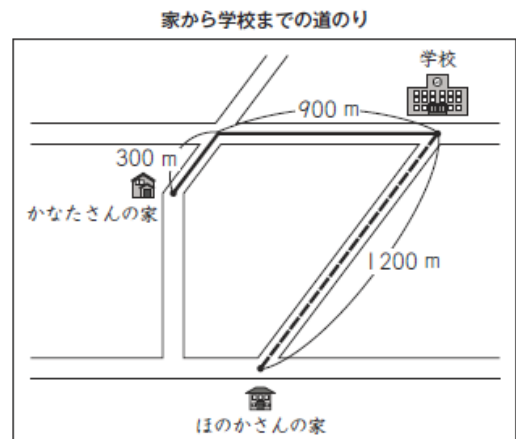
日常生活でもあり得る場面設定の中で、道のり・時間・速さの関係を理解し、異なる二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考える問題。

〔設問(3)〕

道のりが等しく、かかった時間が異なる場合の速さについて、どちらが速いか判断し、その理由を記述する。

「かなたさん」を選択した上で、「2人が歩いた道のりが等しい」ことは記述できているものの、「かなたさんがかかった時間」が「ほのかさんがかかった時間」よりも短いことを表す記述ができていない児童が約3割いました。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

中学校国語

強み

◎読んだ文章を参考に、知識や経験に触れながら書く問題

〔思考・判断・表現/選択式〕

正答率
8割以上

【大問 3】の概要

伝えたいことを明確にするために、集めた材料を整理し、自分の考えが伝わるように表現を工夫して物語の一部を書く問題。

〔設問一〕

【ノートの一部】の〈もとにする体験〉に書いた情報の中から取り上げた意図として適切なものを選択する。

多くの生徒が、「物語を通して伝えたいこと」が「紙の辞書を久しぶりに使って気づいたよさ」であることを捉え、適切に選択できていました。

プリントの一部

（登場人物の設定）
・「僕」……紙の辞書の持ち主（中学生）。
・「君」……紙の辞書の持ち主（中学生）。

（もとにする体験）
「小学生のとき、紙の辞書を机に置いておくと、紙の辞書の引き出しが壊れて、紙の辞書を机の下に隠して使っていた。最近はおしゃれな辞書の引き出しが壊れて使っている。紙の辞書を久しぶりに使った。」

（物語を通して伝えたいこと）
紙の辞書を久しぶりに使って気づいたよさ。

（各場面から伝えたい「僕」の心情）
① 出番のない寂しさ。
② 忘れられるかもしれない不安。
③ 久しぶりの出番で感じた喜び。
④ 次の出番への期待。

物語の読み手に、紙の辞書を初めて手にしたときの気持ちがより明確に伝わるようにするため。
物語の読み手に、紙の辞書よりもオンライン辞書の方がよいことがより明確に伝わるようにするため。
物語の読み手に、紙の辞書を久しぶりに使って気づいたよさがより明確に伝わるようにするため。
物語の読み手に、紙の辞書の引き出しが壊れて困ったことがより明確に伝わるようにするため。

弱み

▲説明的な文章を読み取り、考える問題

（設問一）〔思考・判断・表現/選択式〕、（設問四）〔思考・判断・表現/記述式〕

正答率
5割以下

【大問 2】の概要

文章と図を結び付け内容を解釈したり、具体と抽象との関係や主張と例示との関係を捉えたりすることに加え、目的に応じて文章の内容を要約しながら、「葉の形」を題材として説明的な文章を読み取り、考える問題。



〔設問一〕では、文章と図「さまざまな形の葉」とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができていない生徒が5割以上いました。

〔設問四〕では、着目する内容についてまとめているが、十分な情報を取り上げて要約することができていない生徒や要約した内容と本文に齟齬がないかを見直すことができていない生徒が約3割いました。

四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで（どちらを選んでもかまいません。）要約しなさい。

ア 筆者が葉の形を表す言葉をどのようにグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。

イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

中学校数学

強み

◎グラフの傾きや交点の意味から解釈する問題

〔知識・技能/短答式〕

正答率
約8割

【大問 8】の概要】

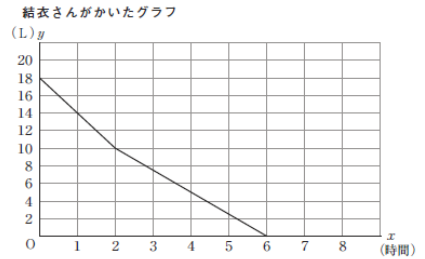
ストーブの使用時間と灯油の残量について、グラフの様子から問題解決の方法について考察し、判断する問題。

〔設問(3)〕

グラフの傾きや交点の意味を解釈し、ストーブの設定をどのように設定したのか記述する。

多くの生徒が、与えられた条件や問題解決の過程や結果と数学的な表現を関連付け、グラフの傾きを捉え、ストーブの設定を正しく解答できていました。

(3) ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考え、使用計画を立てます。そこで、結衣さんは、20ページのストーブの使用時間と灯油の残量のグラフをもとに、次のようなグラフをかきました。



結衣さんがかいたグラフのようすは、ストーブを次のように設定して何時間使用するかを表しています。

はじめに設定を「☐ア」にして☐イ 時間使用し、その後、設定を「☐ウ」にしてから☐エ 時間使用する。

上の☐ア、☐ウ には「強」、「弱」のどちらか1つを、☐イ、☐エ には当てはまる数をそれぞれ書きなさい。

弱み

▲データの傾向を捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題〔思考・判断・表現/記述式〕

正答率 3割以下
無解答率 2割以上

【大問 7】の概要】

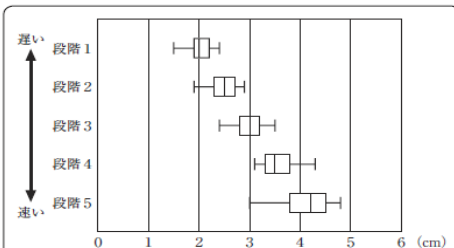
センサーで障害物を感知して止まる車型ロボットのデータから傾向を読み取り、批判的に考察し判断する問題。

〔設問(2)〕

「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張できる理由を箱ひげ図を比較して説明する。

他の問題に比べて無解答が多く、2割以上ありました。また、複数の箱ひげ図を比較できているものの、主張内容が正しいと判断できる理由を数学的な表現を用いて説明できていない生徒が3割以上いました。

10 cm の位置から進んだ距離の分布



	10 cm の位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

前ページの10 cm の位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10 cm の位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

「がんばり」発見！！

このコーナーでは、全国や県の平均正答率との比較、桑名市の経年的な課題等から、桑名の児童生徒にがんばりがみられたことを紹介をしています。

授業での対話を通した課題解決学習の経験から、 「話すこと・聞くこと」の能力 UP!!

小学校国語

桑名市では、日常の授業において、教科を問わず対話（ペア、グループ等）を通した課題解決学習を大切にしています。

大問①では、オンラインを活用した交流の場面が設定され、関連する問題が4問出題されました。ICT活用の経験の多さも伴い、「話すこと・聞くこと」の領域として全国平均より正答率は高く、無解答率は低い結果となり、がんばりが見られました。

児童質問調査での「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる」と肯定的に答えている児童が8割以上でした。

オンライン交流の様子の一瞬

① 深緑小学校 村木さん: はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

② 海風小学校 和田さん: はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

③ 深緑小学校 村木さん: メールありがとうございます。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのようかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ 海風小学校 和田さん: せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかわからなかったもので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 深緑小学校 村木さん: 説明がよくなったですね。話し方を覚えさせね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ 海風小学校 和田さん: よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ 深緑小学校 村木さん: そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出席されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科挙の本に興味をもつことができました。

⑧ 海風小学校 和田さん: 本当に興味をもってもらえるようになるのはいいですね。ぜひやってみたいです。

⑨ 深緑小学校 村木さん: 次に、私たちの学校の給食についてようかいしたいのですが、いいですか。

⑩ 海風小学校 和田さん: お願いします。

⑪ 深緑小学校 村木さん: アイデア給食というのがあります。年2回、自分たちが考えたこんだてが登場します。海に近くて、魚がたくさん入るので、魚料理などを考えます。みんながアイデアを出し合ったこんだてが登場するので、アイデア給食と名づけています。

⑫ 海風小学校 和田さん: みんなで考えたこんだてが出るなんてうらやましいです。私の学校は、ランチルームがあり、全校のみんなで給食を食べます。

⑬ 深緑小学校 村木さん: みんなで食べられるなんて、楽しそうですね。

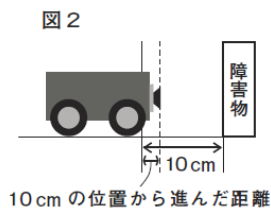
⑭ 海風小学校 和田さん: はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みがありますか。

⑮ 深緑小学校 村木さん: えっぴー（和田さんのメモを見返す）、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。

⑯ 海風小学校 和田さん: 二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つ詳しく教えてください。

～（交流が続く）～

中学校数学



10 cm の位置から進んだ距離について調べた結果

1.5	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0
2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.4	2.4

(単位: cm)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 10 cm の位置から進んだ距離について調べた結果をもとに、10 cm の位置から進んだ距離の最頻値を求めなさい。

桑名市では、小中一貫教育を推進しており、9年間の学びの系統性を意識することを大切にしています。

大問⑦は、センサーで障害物を感知して止まる車型ロボットが取り上げられ、データの傾向を適切に読み取る問題が3問出題されました。設問(1)は、与えられたデータから最頻値を求める問題でした。

最頻値を求める学習内容は、学習指導要領では、小学6年生で学ぶ内容です。小学校で学んだ「データの活用」内容を、中学校においても活用されている結果となり、がんばりが見られました。

同様の問題が、平成31（令和元）年度の問題でも出題されており、平均正答率が約25ポイント上昇する結果となりました。

小学校で学んだ知識を 中学校でもしっかり活用!!

学力向上に向けた取組

以上のように、教科の調査結果に見られた強み・弱みを踏まえ、市では、授業改善の取組をさらにすすめていきます。

こんな力をつけたい

- 社会の中で生きて働く知識・技能の習得
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力
- 課題解決のための構想（見通し）を立て実践し、次に生かしていく力

こんな授業にしたい

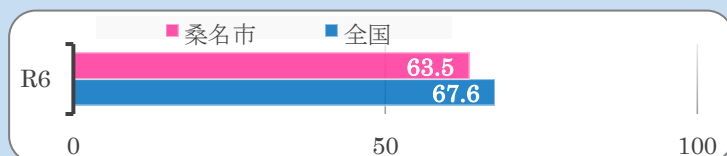
- 自分で考え、調べ、適切な言葉を使いながら、相手にうまく伝わるよう表現する授業
- 仲間や教師の考えや意見を自分の考えと比べながら聴くことができる授業
- 「わかったこと・わからなかったこと」「さらに学びたいこと」などを振り返り、次の学びにつなげる授業



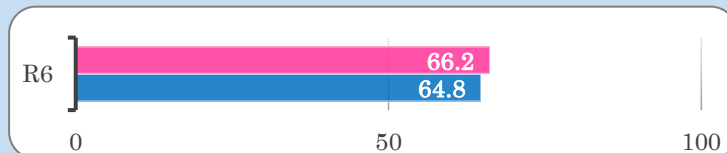
児童生徒質問（学習状況調査）より

「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に対し「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合

【小学生】



【中学生】



桑名市の児童生徒の割合は、小学生は全国平均に届いていないものの、中学生においては全国を上回っています。

自分の考えや思いを伝えるために、学んだことを使って表現する力は、学習活動だけでなく、日常生活の様々な場面でも重要となる力です。急激に変化する今後の社会の担い手である児童生徒には、問題を解決するため「学んだことが生かせる!」と達成感を感じられるような授業を積み重ねていく必要があります。

調査の結果は、今回、調査の対象となった小学6年生、中学3年生だけでなく、小中学校9年間のつながりを意識して、学校全体でよりよい授業づくりに生かしていきます。

Ⅱ 児童生徒質問の調査結果

児童生徒質問の調査とは、該当学年の児童生徒を対象にしたアンケート調査で、学習状況や生活状況について回答しています。令和6年度より、オンラインによる回答方式で実施されました。

これらの回答から見えた結果をもとに、桑名市の児童生徒の特徴的な姿を紹介します。

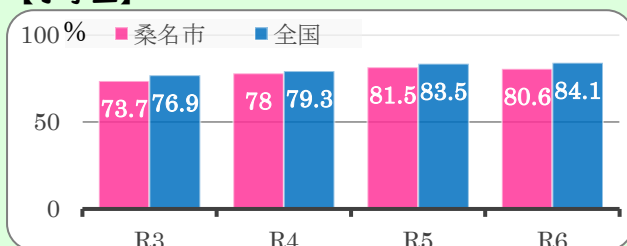
※グラフ内の数値は桑名市・全国の児童生徒数を100としたときの割合(%)

児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関わって

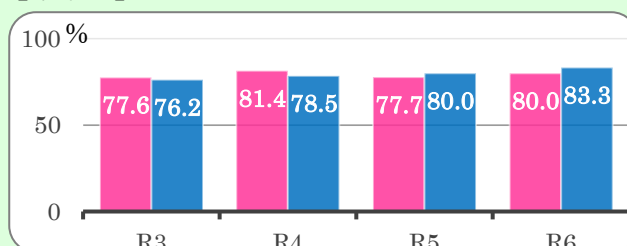
○自分には良いところがある

「良いところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに8割を超え、昨年度との比較において、中学生は上昇しました。しかし、全国平均よりやや低い傾向が続いています。

【小学生】



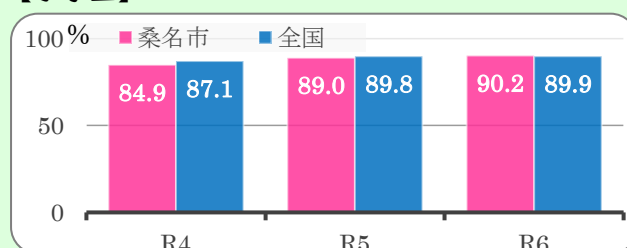
【中学生】



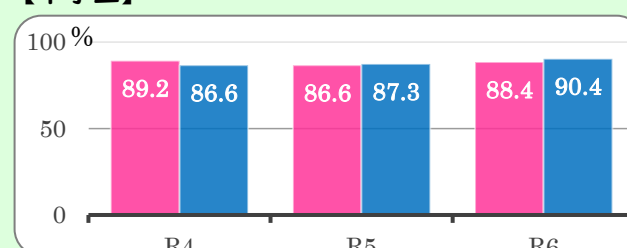
○先生は、よいところを認めてくれている

「先生は、よいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに8割を超え、高い傾向にあります。(令和3年度は同質問がありませんでした。)

【小学生】



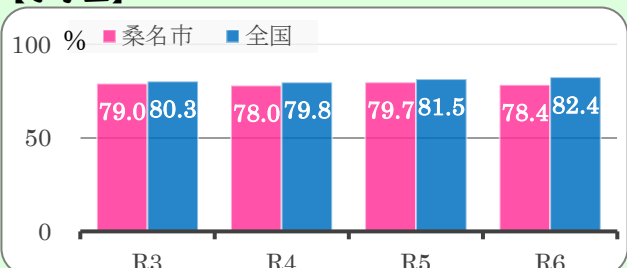
【中学生】



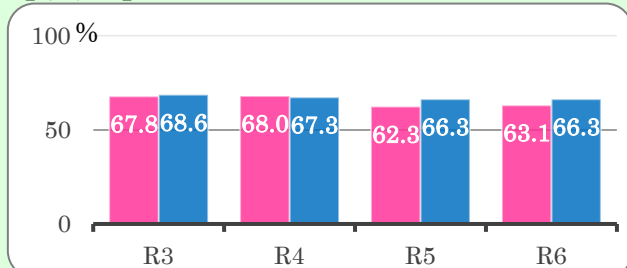
○将来の夢や目標を持っている

「夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生は昨年度よりわずかに低下、中学生は上昇しました。全国平均よりやや低い傾向が続いています。

【小学生】



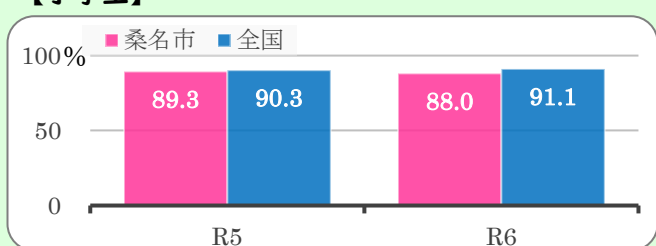
【中学生】



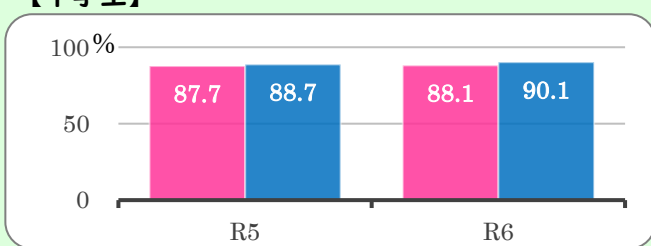
○友達関係に満足している

「友達関係に満足している」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、8割を超えており、おおむね満足している傾向にあります。(令和3、4年度は同質問がありませんでした。)

【小学生】



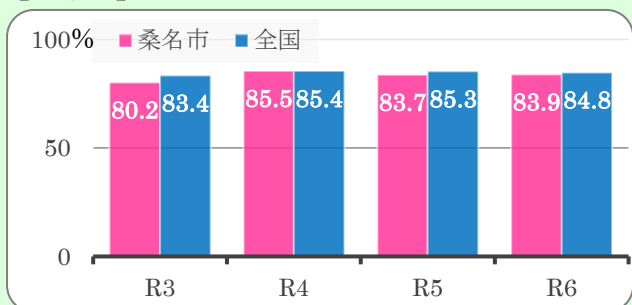
【中学生】



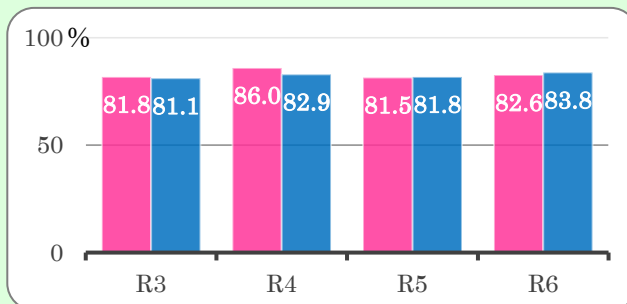
○学校に行くのは楽しい

「学校に行くのが楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに8割を超えており、昨年度よりわずかに上昇しました。

【小学生】



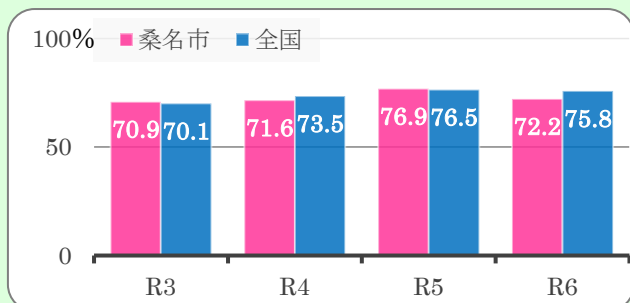
【中学生】



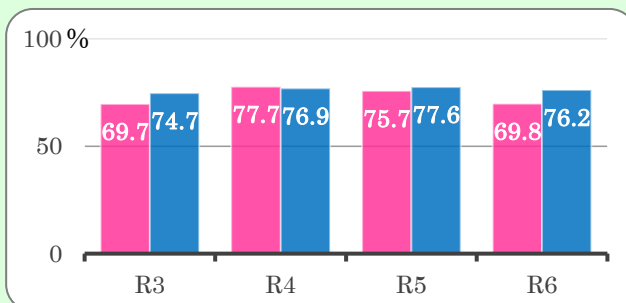
○自分と違う意見について考えるのは楽しい

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに昨年度と比較し低下しました。

【小学生】



【中学生】

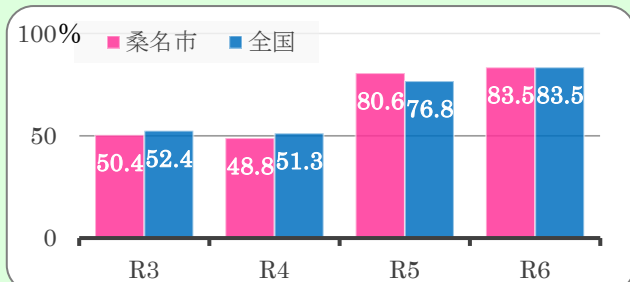


○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

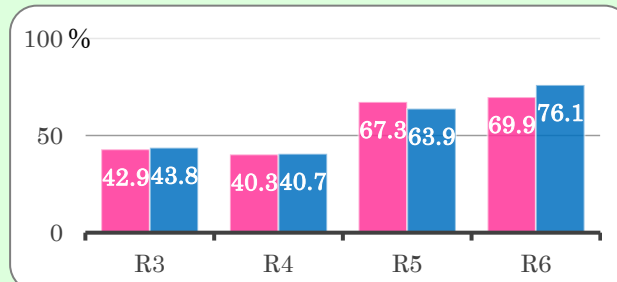
(R4 まで「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある」)

学習指導要領では、主体的に地域や社会と関わり、持続可能な社会を形成することが求められています。「地域や社会をより良くするために何かしてみたいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は昨年度と比較し、上昇しました。令和5年度に質問の文言が変わったことにより、単純な比較はできませんが、引き続き小・中学生ともに自分が地域の一員であるということを意識して活動する意欲と態度を培う必要があります。

【小学生】



【中学生】



家族や友だちなどの他者から、かけがえのない存在としてありのままの自分が認められ、受け止められる経験の積み重ねが、子どもたちの自尊感情を育むことになります。学校では、子どもどうしがお互いの思いや考えを出し合い、受けとめ合える「人権フォーラム」「学級フォーラム」などの取り組みを行っています。良いところを認め合うだけでなく、悩んだり失敗したりすることもあるけれど、自分や他者の存在そのものが大事であるという視点を大切にしています。

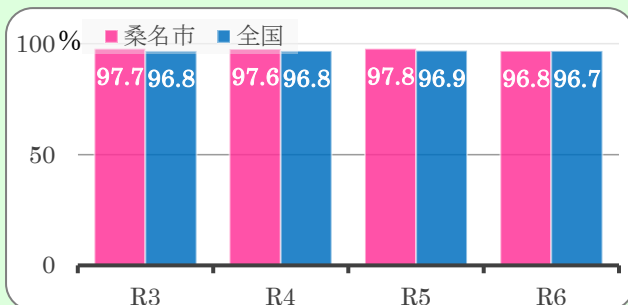
子どもたちが将来の夢や目標を持ち、自らの力で生き方を選択していくために必要な能力や態度を身につけていけるよう、キャリア教育等の充実も図っていきます。

(人権教育課)

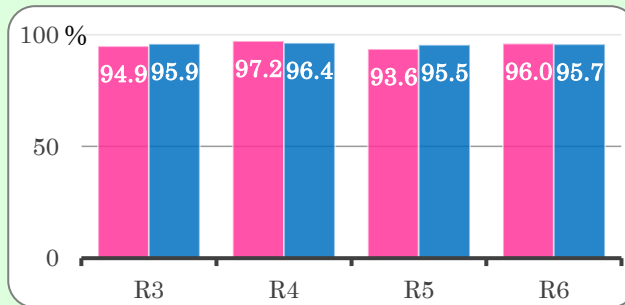
〇いじめはいけないと思う

「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに9割を超える状況が続いています。一方で、そう感じていない児童生徒が一定数いることもあり、いじめ“0”に向けて、引き続き取り組むべき課題です。

【小学生】



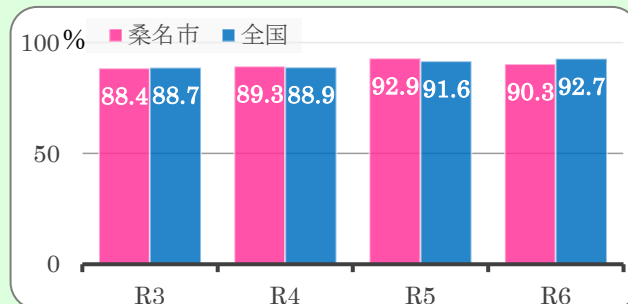
【中学生】



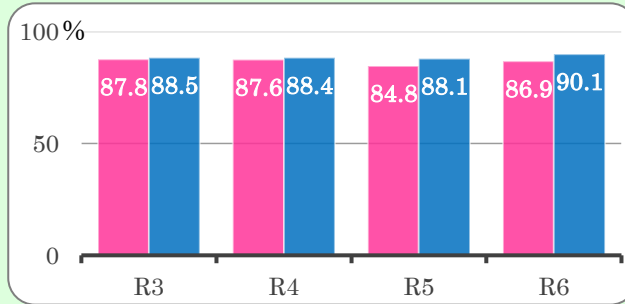
〇人が困っているときは、進んで助ける

「人が困っているときは、進んで助ける」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で9割を超え、中学生でも8割を超えています。中学生では昨年度より上昇しました。しかしながら全国平均を下回る結果となりました。

【小学生】



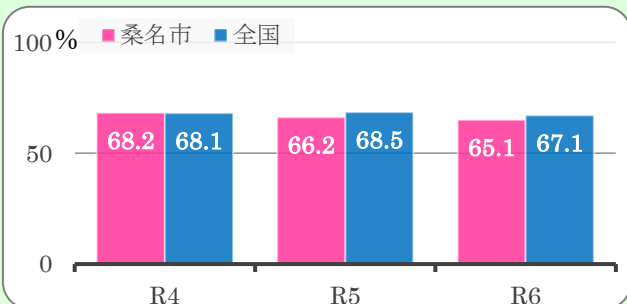
【中学生】



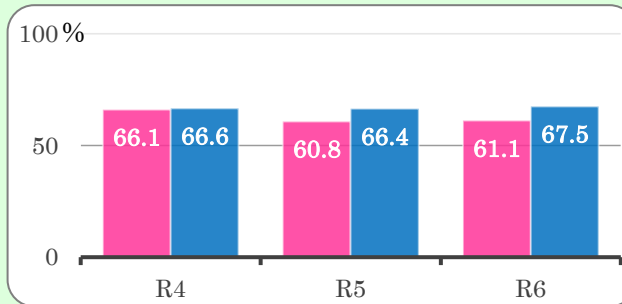
〇困りごとや不安がある時に、いつでも相談できる

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに7割以下に留まっており、小学生は昨年度よりも低下しています。（令和3年度は同質問がありませんでした。）

【小学生】



【中学生】



仲間とともに問題を解決しようとする子どもたちの自発的・自主的ないじめ防止に向けた取組を、毎年4月、11月の「いじめ防止強化月間」を中心に各校でおこなっています。児童会や生徒会を中心とした啓発活動、仲間づくりや自己有用感を高めることを目的とした授業・校内活動をおこなうことで、いじめの未然防止や早期発見・早期対応を目指して取り組んでいます。

困りごとや不安を抱える児童生徒が安心して相談できるよう、教職員との関係づくりの他に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールハートパートナーをはじめとする専門スタッフの研修会をおこない、チーム学校として、よりよい支援ができるよう、継続して取り組んでいます。（学校支援課）

教科学習に関わって

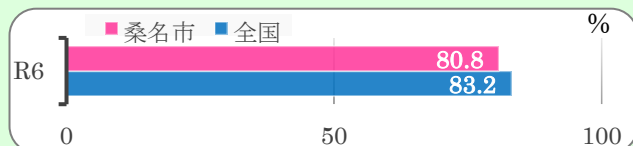
○国語の授業に関わって

児童質問の「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように文章を書いている」と肯定的に回答した小学生の割合は8割を超えています。

生徒質問の「国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している」と肯定的に回答した中学生の割合は約8割です。

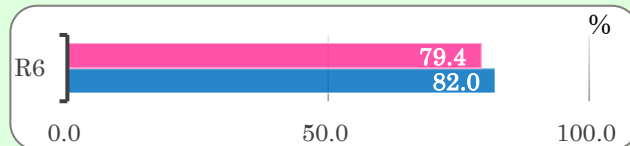
- 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように文章を書いている

【小学生】



- 国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している

【中学生】



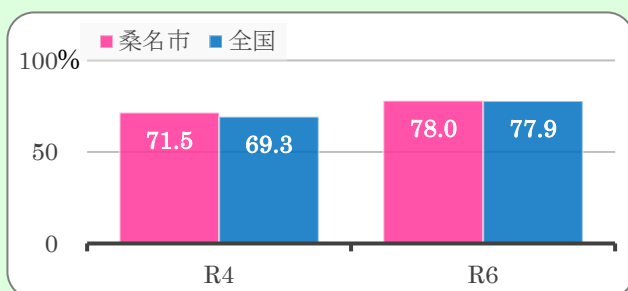
○算数・数学の授業に関わって

「算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で約8割、中学生で6割弱となっています。小・中学生ともに、前回同じ調査があった令和4年度より上昇しています。

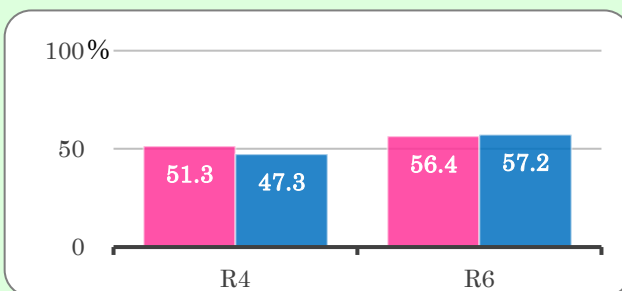
「算数・数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で6割を超え、中学生では5割に満たない結果となっており、小・中学生ともに、全国平均を下回っています。

- 算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える

【小学生】

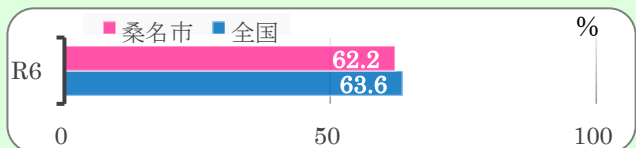


【中学生】

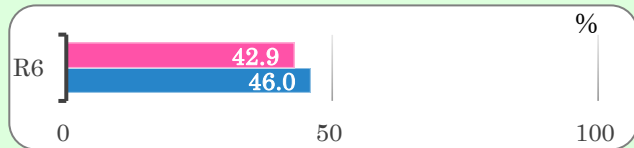


- 算数・数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている

【小学生】



【中学生】



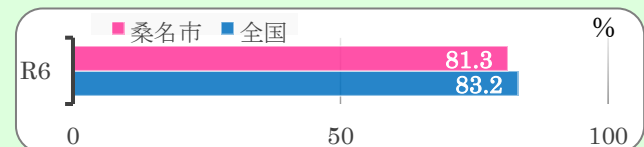
○理科の授業に関わって

前回、理科の調査が実施された令和4年度調査において、「課題の発見」は理科の正答率や興味・関心を向上させる上で重要であることが示されました。

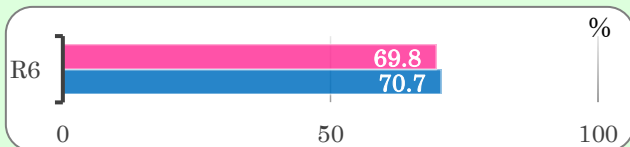
「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある」と肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で約8割、中学生で約7割です。小・中学生ともに全国平均を下回っています。

- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある

【小学生】



【中学生】



○英語の授業にかかわって

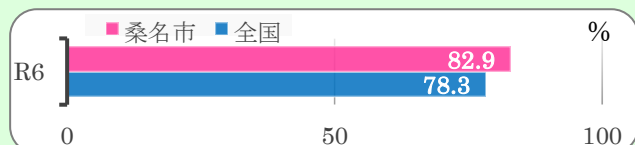
昨年度調査において、中学校で英語の調査が行われました。授業の中で、言語活動に取り組むことで英語力が向上する傾向が見られました。

児童質問の「英語の授業の内容がよく分かる」と肯定的に回答した小学生は、8割を超え、全国平均を上回っています。

生徒質問の「即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動をした」と肯定的に回答した生徒は、昨年度より低下しました。一方、生徒質問の「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動をした」と肯定的に回答した生徒は、昨年度より上昇し、全国平均を上回っています。

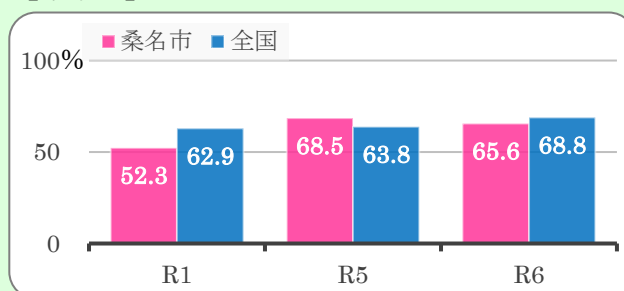
■ 英語の授業の内容がよく分かる

【小学生】



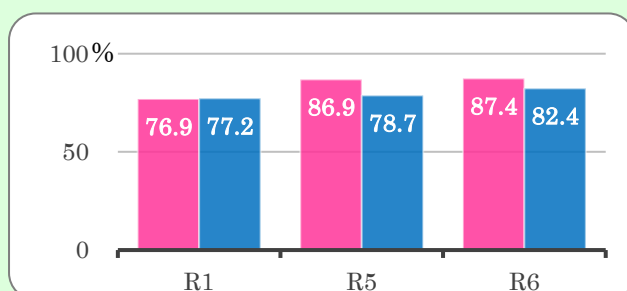
■ 原稿などを準備することなく、即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動をした

【中学生】



■ スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動をした

【中学生】



英語教育において桑名市では、小中一貫して、Small Talk(互いの考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動)を大切にしています。

小学校では、英語専科教員が JTE (日本人英語指導者) や ALT (外国語指導助手) とともに授業を行い、会話モデルを示す等、分かりやすい英語授業になるよう工夫しています。

中学校では、話すこと(発表・やりとり)や書くことのパフォーマンステストを各学期1回以上行っています。特にスピーチやプレゼンテーション形式で話す機会を多く設けています。Small Talk やパフォーマンステストを通して、即興での英語活動の充実を図っていきます。

各教科学習で学んだことを、普段の生活の中で活用するとともに、自分で課題を見だし解決するための力の育成が重要です。今後も各教科で主体的な態度を養うとともに、それが発揮できるような学習を推進していきます。

(学校支援課)

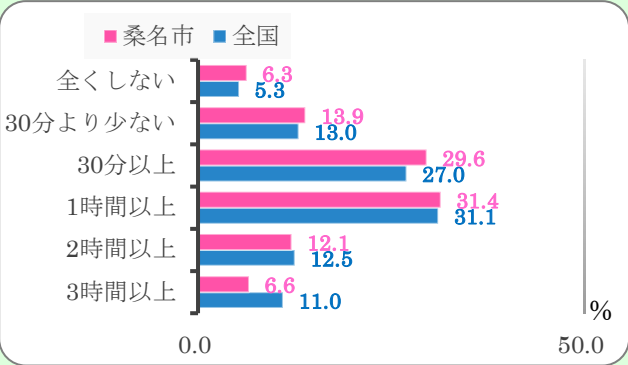
主体的な学びに関わって

○学校外での過ごし方について

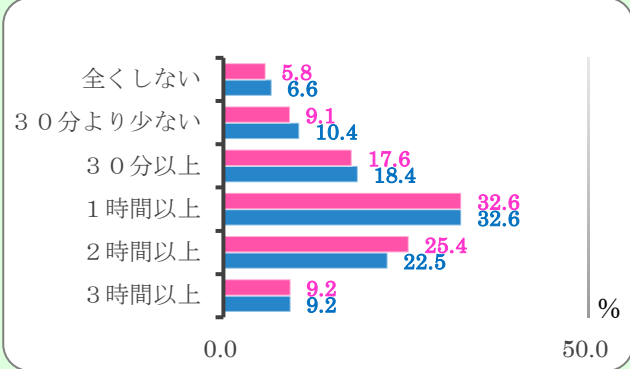
平日 1 日当たりの勉強時間は、小学生については 30 分以上から 2 時間未満と回答した児童が 6 割を超え、全国平均と比べ、やや短い傾向にあります。中学生は、1 時間以上 3 時間未満と回答した生徒が 5 割を超え、全国平均とほぼ同等の分布となっています。

学校が休みの日の勉強時間については、小・中学生ともに全国平均同様、2 時間未満と回答した児童生徒が 5 割を超えています。短い時間で質の高い学習を行えるようになっていると考えられることもできます。

【小学生】



【中学生】



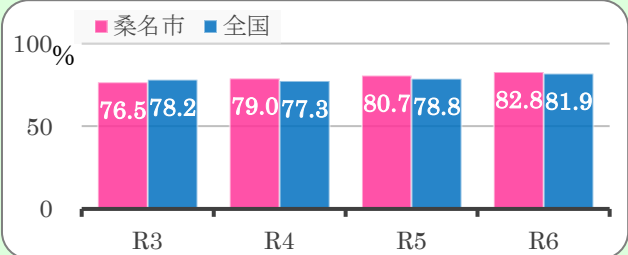
「放課後や週末にどんなことをして過ごしているか」回答率ランキング（複数回答）（市と全国のランキングは同一）

小学生	順位	中学生
家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	1位	家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている
家族と過ごしている	2位	学校の部活動に参加している
友達と遊んでいる	3位	家族と過ごしている

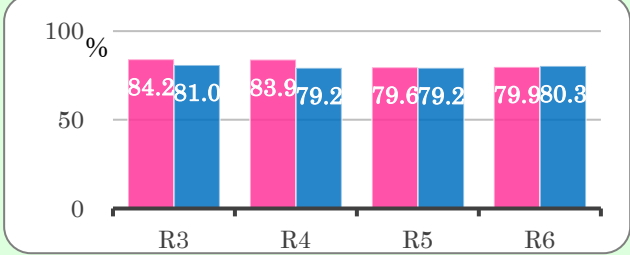
○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

各教科の授業では、学習の結果のみならず、「学習者が知識を相互に関連付けて深く理解する」、「問いを見出して解決策を思考する」、「考えをもとに表現する」といった、学習の過程を重視しています。そして、学習者である子どもたちには、自らの学習を調整しながら、粘り強く取り組むことが求められています。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに昨年度より上昇しました。

【小学生】



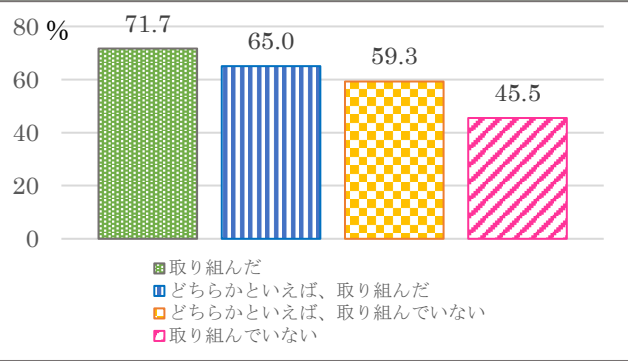
【中学生】



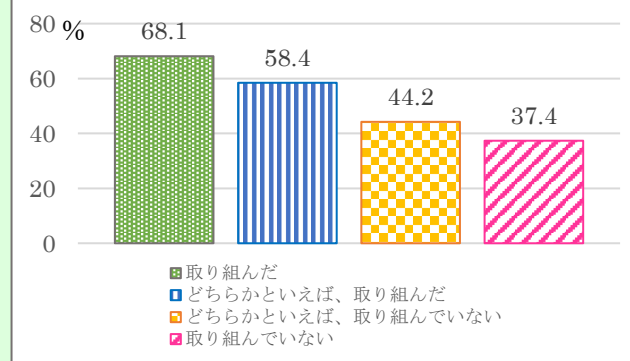
学習状況（国語・算数・数学の平均）との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは、「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」と回答した児童生徒の正答率が高い傾向にあることが分かります。

【小学生】



【中学生】

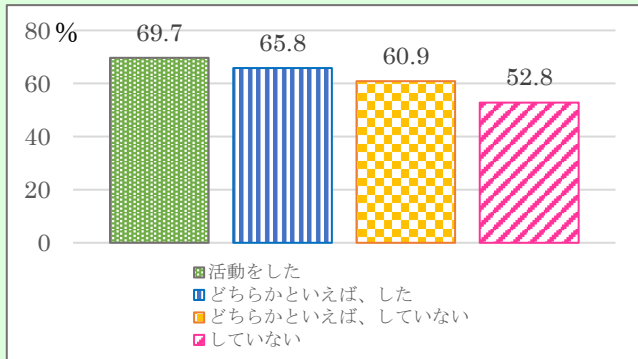


○アウトプット(自分の考えをまとめて表現)する活動と学習状況との相関について

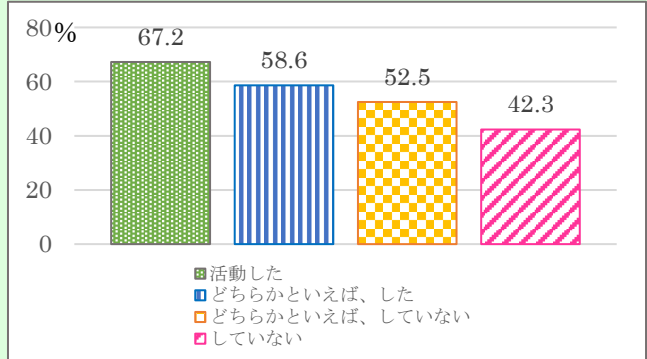
「これまで受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と肯定的に回答した児童生徒は、小学生で78.9%（全国：79.6%）、中学生で71.1%（全国：75.4%）でした。

学習状況との相関を示したグラフからは、各教科で学んだことをアウトプットする活動を「した」と回答した児童生徒の正答率が高いことが分かります。

【小学生】



【中学生】

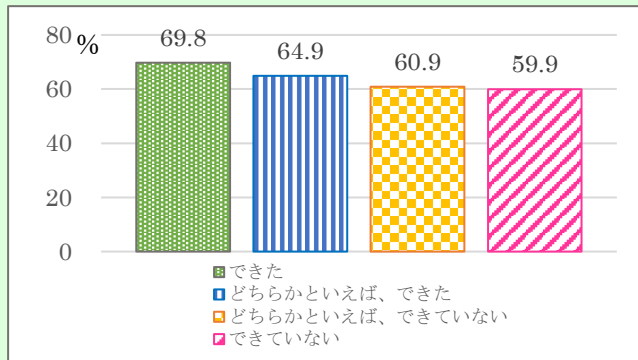


○学びのふりかえりと学習状況との相関について

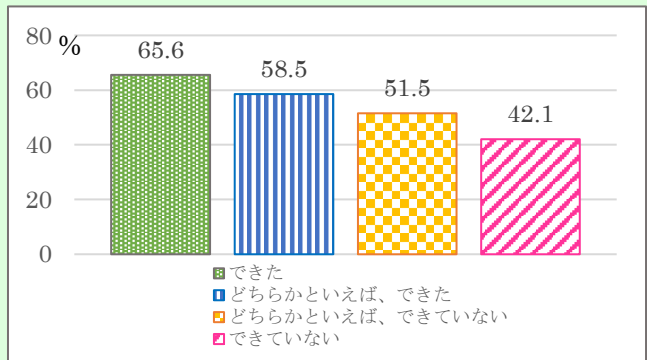
「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と肯定的に回答した児童生徒は、小学生で81.7%（全国：80.8%）、中学生で75.2%（全国：77.9%）でした。

学習状況との相関を示したグラフからは、「自らの学びをふりかえり、次の学びにつなげることができる」と回答した児童生徒の正答率が高いことが分かります。

【小学生】



【中学生】

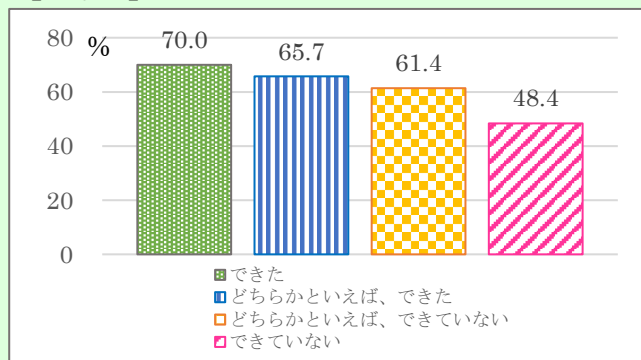


○自分で学び方を考え工夫することと学習状況との相関について

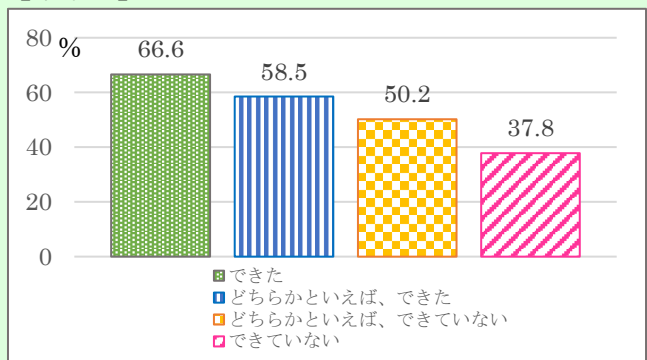
「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」と肯定的に回答した児童生徒は、小学生で80.7%（全国：80.7%）、中学生で74.5%（全国：78.6%）でした。

学習状況との相関を示したグラフからは、「自分で学び方を考え工夫することができる」と回答した児童生徒の正答率が高いことが分かります。

【小学生】



【中学生】



学習指導要領では、「社会に出てからも学校で学んだことが生かせること」が重視されています。児童生徒は、教科の枠を超えて、自ら問いを持ち、その解決に向けて、必要な情報を読み取ったり、既習の知識を活用したり、考えを表現したりすることを、総合的に学び、実際に体験することが必要です。

桑名市では、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感し、学習と生活とを結びつけられるような授業づくりに継続して取り組みます。

そして、子どもたちの「できた」「(他者の)役に立った」という充実感や「もっと知りたい」という思いが、次の学びへの意欲になるような学習をより一層推進していきます。(学校支援課)

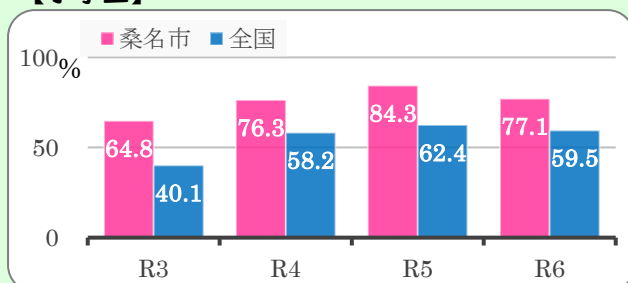
ICTの活用に関わって

○授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上活用した

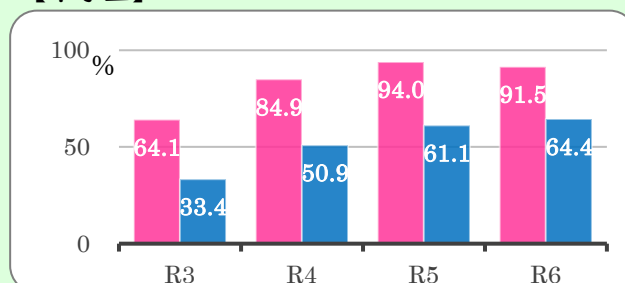
桑名市では、1人1台端末を効果的に活用した授業を推進し、「わかる」「できた」という達成感を感じられるよう、個別最適な学びに取り組んでいます。

「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上活用した」と回答した児童生徒の割合は、令和3年度から継続して、小・中学生ともに全国平均を大きく上回っています。

【小学生】



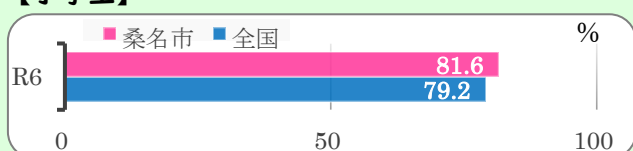
【中学生】



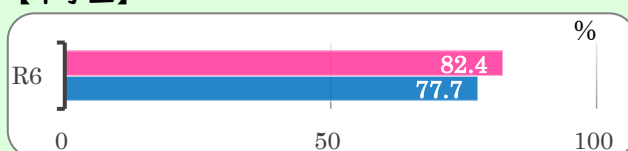
■ ICT機器を活用すると、自分の考えや意見が分かりやすく伝えることができる

「ICT機器を活用すると、自分の考えや意見が分かりやすく伝えることができる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに8割を超え、全国平均を上回っています。

【小学生】



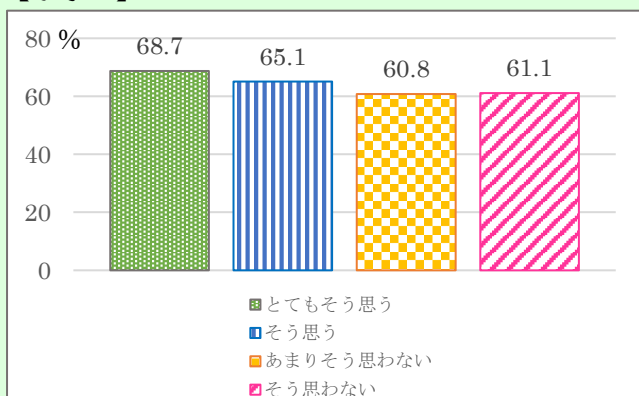
【中学生】



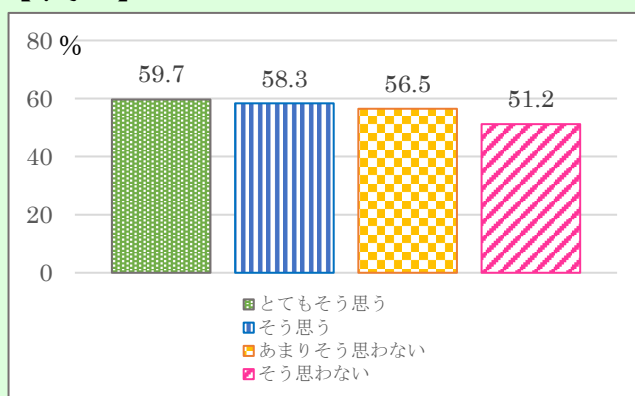
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは、「ICT機器を活用すると、自分の考えや意見が分かりやすく伝えることができる」と回答した児童生徒の正答率が高い傾向にあることが分かります。

【小学生】



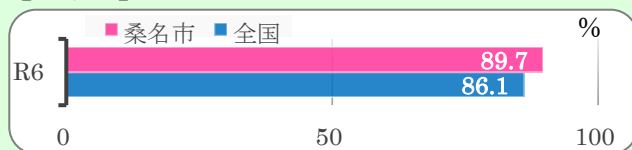
【中学生】



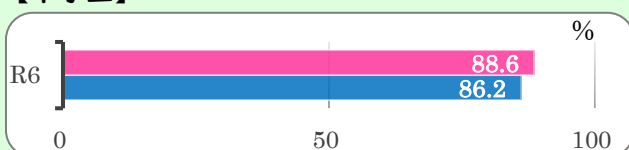
■ ICT機器を活用すると、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

「ICT機器を活用すると、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに8割を超え、全国平均を上回っています。

【小学生】



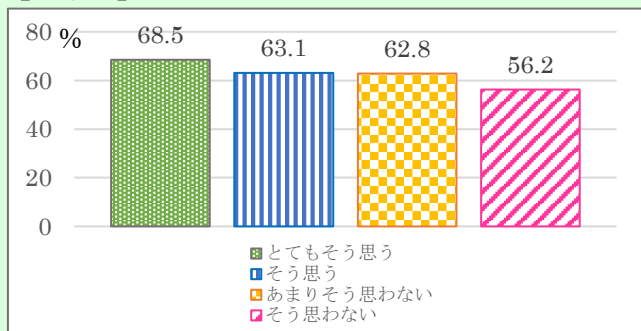
【中学生】



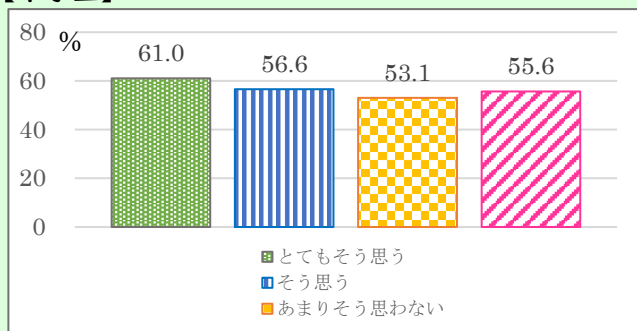
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは、「ICT機器を活用すると、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と回答した児童生徒の正答率が高い傾向にあることが分かります。

【小学生】



【中学生】



桑名市における1人1台端末の活用率は、全国と比べ非常に高くなっており、授業でのICT活用が着実に進んでいます。

授業で1人1台端末を活用するにあたっては、個別の作業だけでなく、アウトプットする場面での活用がより大切だと考えています。

自分の考えや意見を伝える場面では、図や表を使って分かりやすくまとめる、資料を示しながら発表するといった活動が、ICTの活用でより容易となります。また、友達と考えを共有したり比べたりする場面では、クラウド環境を活用することで瞬時に全体の意見を共有し、多くの考えに触れながら、自分の考えを深めることができます。



今後も、「端末をどう使うか」ではなく、「表現する」「話し合う」「発表する」といったアウトプットの場面を中心に、「何のために活用するか」を大切にした活用を進めていきます。（学校支援課）

おわりに

桑名市教育大綱では「夢を持ち、その夢に向かって努力する子を育てること」を基本理念としています。また令和2年度から小中一貫教育を導入し、9年間の縦のつながりを大切にした教育を進める中で、児童生徒一人一人に、これからの社会を生き抜くための確かな学力、社会と関わり他者と協働できる力、粘り強くじっくり取り組むことができる心と体を育成しています。

本調査が、児童生徒の学力の全てを表すものではないことに留意しつつ、今年度の桑名市の結果を踏まえ、今後の取組を進めていきます。

子どもたちの学力向上や健やかな成長には、子どもたちの学びの基盤になる日々の生活習慣を整えていくことが重要です。ご家庭では、睡眠や食事など、お子さんの生活のリズムを整えていただけたらと思います。

また、本調査の結果からは、「自分には、良いところがある」と思っている子どもほど、学力が高くなる傾向がわかっています。家族で過ごす時間には、学校での様子をお子さんに聞いていただき、がんばりを認め、励ましてあげてください。

これからも、学校と家庭、地域が一体となって、子どもたちの成長を支えていけるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。